



Handwritten text on the title slip, likely in Japanese calligraphy. The characters are arranged vertically and appear to be: 佛, 教, 三, 蔵, 入. This likely refers to the Buddhist canon (Tripitaka).





椽 おそわ しげ あ ら の の
は た い み の か さ

和名椽 ツル バ ミ イ チ ミ 都留波美 椽實也 とん が ら の か は ら の あ ら し
一説名目抄 ニ ハ ラ ヒ 亮圀の町取上人の伝 ス ラ ハ シ 椽の原色也 か は ら の あ ら し
也 とん が ら の あ ら し は ら の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し
乾 魚 や け ら の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し
栗 林 水 が ら の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し
栗 林 水 が ら の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し

● き よ う と と ゆ れ の の
透 影 か ら け ら の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し
透 影 か ら け ら の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し
小 袖 提 り の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し
小 袖 提 り の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し
盪 水 が ら の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し
盪 水 が ら の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し の あ ら し

● 黒い びんぼう

秘すみのすま 風早朝也 びんぼう 自癢き正躰也 びんぼう 不浴

とやうく 和 びんぼう 練色 びんぼう 練色

とやうく 和 びんぼう 練色 びんぼう 練色

とやうく

● 黒い びんぼう

或部のびんぼう

或部正爵 百寮訓要 古里 びんぼう 古里

とやうく 古里 びんぼう 古里

とやうく 古里 びんぼう 古里

とやうく 古里 びんぼう 古里

博物志曰 燒錫成胡粉 又和牡蠣為胡粉

やうく 古里 びんぼう 古里

西官記 天禄四年十一月八日 女御懷子於東河 有除服其後

御旗 柳毛車 其上張筵懸鈍色簾 并下簾 鞆亦御杖

之後取張筵懸 簾亦即以飯御き

換井違使 赤い

職原曰 當使補者 督長六十人 是為遣諸國也 別當屬

附之者也 著赤狩衣 白布袴 以白杖 追私雜人者也

伊豫蘆筋 大

いよりのあしぢ筋 大 *Yoshino no ashiji* 大 *Yoshino no ashiji* 大 *Yoshino no ashiji* 大

延喜式民部式 出雲國 續二百廿七足 足 摩草女 張道三百枚

● *Yoshino no ashiji*

競 *Yoshino no ashiji* 鬻 *Yoshino no ashiji* 縷 *Yoshino no ashiji*

な *Yoshino no ashiji* 中 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋

ら *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋

ら *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋

ら *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋

ら *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋

Yoshino no ashiji 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋

ら *Yoshino no ashiji*

● *Yoshino no ashiji*

ら *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋

ら *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋

ら *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋

ら *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋 *Yoshino no ashiji* 筋

白氏文集十観兒戲詩日 齧靴七八歳 綺紈三四兒 弄塵
復園草 盡日樂嬉

あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか

●名にあらしこともの

あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか

雷胡氏曰陰氣凝聚陽在內而不得出則奮擊手而為雷

名のうらなひにふかふか

雖聖人起不能易ハク
迎風暴風正不祥
緑衫六位のうらなひ
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか

あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか
あつちのうらなひにふかふか

文章博士 相當從五位下
書并詩文讀書人也
翰林學士 函考 史漢歷代之

皇后宮帝王書
官邸字の権左史
村本多々大史の...
カクシタ
オダ

職原抄 華族 紳言 參議 又 三位以上 並之

木柵
を函
しつらりきまひて...
ハ五

ともつちめくまつかつて...
ハ五

本綱 虎杖言 其筆 虎言 其班也 田野 甚多 狀如 大馬 粟

・むけしげあはれあし...
ハ五

續の翁の裏也
めもあし
福のあし...
ハ五

けづらうらわあさ...
ハ五

鐘目
めいめ

西宮記 皮衣 以 時 奈 舞 人 油 以 服 黒 枯 皮 衣

はあし...
かたせ...
あし...
男の思...
ハ五

あし...
ハ五

江次才 内膳 侍 遠 岡 具 宗 女 取 侍 之 自 弟 三 同 侍 九
帳 上 付 女 侍 人 女 侍 人 傳 陪 膳

職原 東 堅 子 事 也 東 堅 司 内 侍 下 被 官 一

この河津相公あしと馬よの信奉す是是用三子
謂三子護天子有故事也モルトヲルも同く名案相傳紀朝
臣季明スニキキよ 於信行りスニキキと信らぬ

育ユク十二月のほごりよをわの藤人

取天子御身長ツク襖之采女ツク物之加日節折為人ツク節
折余婦ツク公事根原よ節折の加ぬは神ツクまゝツクまツクくツクわツクけ
も初てふれすは成ツク果て言ツクまツクまツク切ツクあツクてツクさツクまツクくツクわツク秘ツクを
知ツクるツク也ツクゆツクてツクわツクらツクるツクのツクすツクはツクをツクまツクしツク折ツクわツクくツクぐツクじツク也

季明の時の時の中家の使を威儀師イギシと云下下イギシたイギシるイギシもの、イギシ不イギシかイギシ也

江次第日 季御讀經春秋二季請百僧於南殿讀大

般若經其内定御前僧廿口於御殿讀仁王經
西宮記仁壽殿東座端威儀師イギシ依前居イギシ殿
延曆寺供養記曰奉行僧二人威儀師始賜赤袈裟

僧の文どもよみむけふいひらうし

江次第五季の傍經事曰此文屋上の前入年一僧名名僧
帳諸寺解文外任并死去此文亦與福寺延曆寺等三
義者注文也イギシ年僧名上押紙書付人等イギシ可請定僧名イギシ
イギシあイギシ時イギシ出イギシたイギシ福イギシ物イギシ物イギシ等イギシ東イギシのイギシ納イギシ内イギシ事イギシをイギシ也

由讀註以名をのわらうぐのわらう

雲圖抄裏言曰季御讀經事 初日ゆり人奉社由後
御家東并奉仁南殿持東

かすがはゆけりのこむらさき

公事根原曰二月十一日行幸先未の日使の御侍
の中少の御侍。万葉歌のあまの。貞観元年十一月九日
はるけのま。宮中於七条堀河有除目左右大下各一人
以權人^{シテリク}御^{ヲス}方^ニ大弁多一人以番長^{シテ}
大食の所^ハ御^ニゆ^ル也 中少御侍の時の饗宴やあまの時の役人のねがひ

西宮記云二日二宮大饗食王饗食以下各奉^ル拜^ル礼^ニ近^ク御^ニ
於言^ニ輝^ル門^ニ起^リ着^キ靴^ヲ着^キ中^ニ宮^ニ饗^ハ食^ス 中^ニ畧^シ次^ニ着^キ東^ニ宮^ニ饗^ハ食^ス

い月のまゝ

公事根原曰 菓子とて^{オシキタ}少^ク女^ノの^シ嫁^トして^シ用^ニゆ^ル屠^ノ蘇^ノ少^ク也

よのしとよる文にわく少^ク女^ノの^シ嫁^トして^シ用^ニゆ^ル屠^ノ蘇^ノ少^ク也

屠蘇 本綱 赤木桂心 各七錢五分 防風 一两 菝葜 五錢

蜀椒 桔梗 大黃 各五錢七分 烏頭 二錢五分 赤小豆 十撮

三角^ノ絳^ノ囊^ニ盛^テ之^ル陰^ニ夜^ニ懸^テ井^ノ底^ニ九^ニ且^ニ取^リ出^シ置^キ酒^中煎^テ數^ク沸^ス

奉^ル家^ニ東^ニ向^テ自^ラ少^ク至^リ長^ク次^ニ第^ニ飲^ム之^ル茶^ヲ滓^ハ還^シ投^テ井^中歲^ニ飲^ム

是^レ菜^水一^斗無^シ病^ニ 白^散 貞^徳云 白^木 桔^梗 細^辛 各^一分

ははいごんのうねめ

天子の給仕する人

職原小 陪膳^ニ未^ニ女^ノ最^モ可^キ然^ル事^也 近^ク代^ニ零^ク落^ク無^シ極^ニむ^{コト}有^ル

沙汰事也

大食日乃史生

右太右内太下

右太右内太下を物任として河上節會社にて任ぜらる也。

是の細みく太下よあるといふ事河内にて宣部より

内務より河内井上といふ所の是れ書よりと云會より

職員令有「左史生十人右史生十人」太下中の史生を中中れ

細事と云れたる人等河内よあるといふ河内を云也

七月相模のすゝい かのあはりの市がせい

考曰わあといふ事上よある城のさきといふ事

そあはりのさきといふ事市をさきのさきといふ

こもすれ折のかんぢり

● ちかーがあいの

夜啼

よあといふものすらのあろ 乳母 ちかあといふもの

らみあといふもの 強 物怪 あはれ 験者

どういふもの 観念地 ちかあといふもの

ちかあといふもの 開自家の長下の ちかあといふもの

ちかあといふもの 一の ちかあといふもの

ちかあといふもの 職原抄曰執柄者必蒙一座之宣昔故称一人又云一所

ちかあといふもの

● ちかあといふもの

ちかあといふもの 俗人のちかあといふもの

ちかあといふもの 俗人のちかあといふもの

しつとてはるるあつたかやいの物さるる。あつたがた
^{少納言の書箱の時} *Shikō no Shōhō no Toki*
^{坂の意} *Saka no Ichi*
 中の中やろろるる。あつたがた。あつたがた。
 いはくはげもあつた。あつたがた。あつたがた。
 いらしし。あつたがた。あつたがた。

神名帳 稻荷社三座上社土御祖神 中社倉稻鬼下社
 大山祇女 神社考曰空海於東寺門前途負稻老人空海
 多之為東寺鎮守其擔稻故稻荷 一の角を
 為田神地置倉稻鬼故也

^{キヤギ} 二月七日の日あつた。あつたがた。

神祇拾遺曰二月初午者元正帝御宇當社影向之日
 偶二月初午日也故至今用此日

^{半分} あつたがた。あつたがた。あつたがた。
 堀は後百をさるる。あつたがた。あつたがた。
 署 副 ^{あつたがた。あつたがた。}

あつたがた。あつたがた。あつたがた。
^{市めきよきあつたがた。あつたがた。}
^{あつたがた。あつたがた。}
^{あつたがた。あつたがた。}
 あつたがた。あつたがた。あつたがた。
 あつたがた。あつたがた。あつたがた。
 あつたがた。あつたがた。あつたがた。

か達者か身也
か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

か達者か身也

髪

敬重

寵愛

上

鳥のわいのやまはくしみの早や

蒙求 蒼頡 黄帝 臣下 觀鳥跡 作文字 鬼夜哭 龍潛藏

上の

女房の内の上臈を

か達者か身也

和泉

か達者か身也

女房

文

初

上

か達者か身也

か達者か身也

遠法師云 赫三昧者 何專思 寂想之謂也 思專則志

一不分 想寂則氣虛 神朗也 氣虛則智恬 甚照神

朗則無幽不徹 是二乃是自然之方 存用一致用也

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 聖

疾也 *shiki*

寒涼

村紺 括物

産

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

● *kasuya no me*

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

續飯

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

和名抄曰 唐令 管大頭 管小頭 管半 又 杖皆削去 節目長

二尺五寸 三寸 犯人 杖の杖也

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

カシヤノ 簾の目 *kasuya no me* 産

用のむかひ也

あし。Suzuki no ... 此の車は大強ゆ也

車。Suzuki no ... 物車之為也

事。Suzuki no ... 胎衣の事也

事。Suzuki no ... 同車の事也

事。Suzuki no ... 煎炭

事。Suzuki no ... 懸想人

事。Suzuki no ... 又き折し

事。Suzuki no ...

事。Suzuki no ...

事也

暫く出合かもしよ多き又懐かき

事。Suzuki no ... 松葉置紙の地也又一説待書置目也

事。Suzuki no ... 中開白道隆公長徳元年四月十日卒一終山服の事也

事。Suzuki no ... 定子の出也

事也

今日六月十二日廿日大被東西文部上被刀讀被詞訖百

官男女聚集被所中臣宣被詞下部為解除

職御曹也 方角 太政官の司也

事。Suzuki no ... 袂 凡

事。Suzuki no ... 格子 四方也 多

中文何の

くわゆぞかけるふらびりくあげしうばり。女房存にわらあきし。く。
前栽 萱草
わらぶ。せんさつもあくらんけうと草紙架垣結。せゆひくいとけりくしきま
花房なりて
ひら。たにらうきく。あさなわく。はらまらふ。せびししとあのお載
時より
まきよし。けづさあむいんあがらうりて

職員令言漏尅博士二人掌率守辰丁伺漏尅之郎以時

撃鐘鼓

時あゆ鐘也 後

かたの音も。まじりまはらばさこゆゆ。ゆがくくまうて人く女余
其方
くまららあきしひりけけらら。うたなまのぢりあゆれしり
清少
くあづはば。びの表かきぬけあきぬひくがね。くらあみれ
背子
くらゆまゆて。のぢりらら。うた。あきま。あきま。あきま。あきま。あきま。
高樓也
女房
天人といふまじりたれは

高樓の塚語也

くまららあきしひりけけらら。うたなまのぢりあゆれしり

三男義云色界天人有淨名色故名色男身端巖是也

無色天人無有形色唯有形故名無色男

ひら。たにらうきく。あさなわく。はらまらふ。せびししとあのお載
中モ位のまじりうら
くまららあきしひりけけらら。うたなまのぢりあゆれしり
上臈は日の中用捨て目くしきま
くらゆまゆて。のぢりらら。うた。あきま。あきま。あきま。あきま。あきま。
わらぶ。せんさつもあくらんけうと草紙。せゆひくいとけりくしきま

近衛陣者東青瑣門内西月華門内也

公の勝る者なり終りて
太政官の作人并お記
ひら。たにらうきく。あさなわく。はらまらふ。せびししとあのお載
女房なり
くらゆまゆて。のぢりらら。うた。あきま。あきま。あきま。あきま。あきま。

弘徽殿の南小廊はり。おぼへて後ともよその中へをよ
る上人あまのまらし。後やうくとす。おぼへてせうく。あまのゆめ
おぼへて一人のまらし。おぼへてせうく。あまのゆめ
か。おぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ
おぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ

朗詠 露夜別渡珠室落雲是強松響未成

源中ぬ。おぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ
おぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ
おぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ
おぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ
おぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ

かづの林はあがてらあまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ

大納言初光下らうおぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ
おぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ

神社考 役小角棄家上葛木山居巖窟者三十余歳一日
告山神云自葛木峯蹊金峯山其間危峻釜釜苦行者猶
或艱汝木架石橋通行路衆神受是命而夜運冥
石督管構小角呵神云何不早成對云葛木峯一言生
神其形太醜難昼役待夜出以故遲也 畧
おぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ
おぼへてせうく。あまのゆめ。おぼへてせうく。あまのゆめ

あし

悪方署位紳士時、善後名物、可宰相せり

Saigei no yaku ni wakaru...

Uchi no naka...

Uchi no naka...

Uchi no naka...

Uchi no naka...

Uchi no naka...

悪方別の詩

悪方の詞

Uchi no naka...

朝敵人をあつて...

清少

Uchi no naka...

Uchi no naka...

相持 京二条...

Uchi no naka...

Uchi no naka...

Uchi no naka...

Uchi no naka...

前のうらまのあまや

一葉の院

清少納言

ぬくまいたたり。宰相のりりひひ一紙。このひあましく。ははいあましく。
いひゆるとすれ

蕭會稽之過古廟託締異代之文。後相公文友の

也。と私の太守蕭氏との交とらひく。是宰相がらるる

あまのまのまをいふ

帝

宰相はあまのまをいふ。さげらるる。かばいひらうらむ

ひあまのまをいふ。さげらるる。かばいひらうらむ

さげらるる。かばいひらうらむ

さげらるる。かばいひらうらむ

あまの朗詠のあま

宣方の酒

あまの朗詠のあま。宣方の酒。あまの朗詠のあま。宣方の酒。

吾年三十五。未覚形骸。衰今朝懸。明鏡照見。二毛姿。疑鏡

猶未信。拭目重求。髭可憐。銀鏡下。拔得數莖。絲照秋

多愁緒。至是又重悲。悲止思事理。事理信可知。十六位。四

品。十七職。拾遺。延長休明代。久趨白玉墀。承平無事

曆教採鷲衛旗。赤入室藉。官位得相待。顔四周賢者

未至三十期。潘岳晋名士。早著種典詞。彼皆少於我。可

喜始見遲。本朝文粹。見二毛。源英明

清少海

ものち朗詠一筆はゆほし

三十のさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

のさの

陣

のさのさの

ほろろくさひほろろくさひふつとひらけらわらわ

情不朗詠を

是下

あのが

情の

かろいさほろろくさひふつとひらけらわらわ

情の

情の

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

情の

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

職原抄九者近衛中衛也平城天皇御宇大同二年勅

近衛為左近衛中衛為右近衛

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

あまのさしあきんづきつらうわいさ中げこりしなはば

あまのさし

あまのさし

前漢骨列傳世四朱買臣常艾薪推賣以給食擔束薪

清浄の詞

とほやとのこまづまひも海らみのひらぐらゝのむらさきも
子方の少納言まのつゝあはれこゝろみぢなれば

・しーはがらぬらうあらよ

煙網縁

うぐんづのこまみ。あまうやあまはれかゝ名の存丹のおとそ

白きや音もあはれおとそ

はるら。あのかうらたの木のたれはれ 地すりのれをたれ
白きや音もあはれおとそ

帽額

かかればきりならん

のづらわてけりならん (首飾) めづらあけりあはれ
蕉の灰の色のこや

老疲

乃むいらづをたれ おしり 本よりあはれ

水草を掃除す人もくじりのまはらきて不用也

あまはれら 洋 みはれら

・あまらげあらよ

男女友との中

心みくして人よすれがらあはれ 夜離 ひとよ。れからあはれ 老下守り也 志はのから

あまに

あまに 野のあや 人とのまぶ人の事あがらふた事うけ

一どん

一どん 病氣 するのよまらん

あま

あま おま けら

・ちんてん

あま 同服 親族 けら

あま 九折軍の七曲 けら

あま 九折軍の七曲 けら

・あま

あま 心通すれはまはら けら

阿弥陀經 從是西方過十萬億佛土有世界名曰極樂
又曰去此不遠

● 井を

去

走井也江井より早くあるを云ふ
ほり井をいふさうなれがおりま

えいさうさあまのぼりめん
あまの井もいふさうと

いあさうをいふ
二条方里小治

催馬糸

舎

水水

古馬草

城

鳥東大炊門の南

山城水邊の邊

常寧殿

鳥の井

鳥の井

鳥の井

鳥の井

宋あやらの井
イ本らあやらの井

● 諸國の手後園衙庄園の事詳を記す

紀伊の寺
紀伊の寺

和泉

秦徐福求仙藥未是國郷人為奇異人故曰紀伊

國史云元正天皇靈龜二年四月甲子割河内國大葛日根

和泉三郡始置和泉監

やどあげの井

宿げの井も。院司の庭下古臣の相也。古臣のやどあげ

のへ。大上岡の井の寺紙かぬれ。控もいひわて。五は叙せ

らう也。いれは宿下の控も紙五任して。朝控も宿下

職原 推守者近代多是遠授下也。系後二三任中。初

納言亦必多。又云古臣人叙位。時朝臣即任控也。又

所也

上野上野も下野も同じく上野持のまわり中下の国なり
下野 甲斐 河後 河後 河波

下野の国府ハ在都賀郡ニ 甲斐の国府ハ在民部ニ

河後の国府ハ在取城郡ニ 河後の国府ハ在由井郡ニ

河後の地形ハ木兔ニ 河後の国府ハ在名東郡ニ

●大史を

史をタイフと云ふ 左史タイフと云ふ 史をレと云ふ

大史を五位の惣名也。此時タイフ多字 右史タイフ大史を云ふ。皇名を

云。皇名を。中宮。この二職の右史を。皇名と列レせし

凡ち大史と稱す。右史の画月也

左史の射言は相也。右史は五位を叙せられ。位イ行レ時イ。左史

右史。左史。右史。左史。右史。

史を云ふ。八史を云ふ。位の諸を云ふ也。右史は五位を叙。位行レ時イ。左史

史の右史と云ふ。

左史は人。右史はくづと事。右史は。叙爵する也。右史は。右史は。右史は。

右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。

右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。

右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。

右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。

右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。右史は。

Handwritten title or header at the top of the page.

Main handwritten text line 1.

Main handwritten text line 2.

Main handwritten text line 3.

Main handwritten text line 4.

Main handwritten text line 5.

Main handwritten text line 6.

Main handwritten text line 7.

Main handwritten text line 8.

Main handwritten text line 9.

Main handwritten text line 10.

受取

徳圃のりん

水章居

不全

水章居

審

此の事修理

前段門より各事多し

此の事修理

此の事修理

Handwritten text at the top of the page.

受取

Main handwritten text line 1.

Main handwritten text line 2.

Main handwritten text line 3.

Main handwritten text line 4.

Main handwritten text line 5.

Main handwritten text line 6.

Main handwritten text line 7.

Main handwritten text line 8.

Main handwritten text line 9.

Main handwritten text line 10.

Main handwritten text line 11.

Main handwritten text line 12.

鎖

門番の事

生防の事

門

審

修

信の事

門

此の事

此の事

健

門

Handwritten note at the bottom left corner.

Handwritten text at the top left of the page.

Handwritten text in the middle left of the page.

Handwritten text at the bottom left of the page.

Handwritten text at the top center of the page.

Handwritten text in the middle center of the page.

Handwritten text at the bottom center of the page.

Handwritten text at the top right of the page.

Handwritten text in the middle right of the page.

Handwritten text at the bottom right of the page.

Handwritten text at the top right of the page.

Handwritten text in the middle right of the page.

Handwritten text at the bottom right of the page.

Handwritten text at the top left of the page.

Handwritten text in the middle left of the page.

Handwritten text at the bottom left of the page.

Handwritten text at the top center of the page.

Handwritten text in the middle center of the page.

Handwritten text at the bottom center of the page.

Small handwritten note at the bottom left of the page.

障

Handwritten note in the middle left of the page.

Handwritten note in the middle left of the page.

換

兄

手

Handwritten note at the top right of the page.

Handwritten note in the middle right of the page.

Handwritten note in the middle right of the page.

Handwritten note at the bottom right of the page.

Handwritten note in the middle right of the page.

Handwritten note at the bottom right of the page.

高麗の歌
たゞふかふか人煙なきやうなうらやまのさびしき

拾遺

山坐
山坐をわがほほくさるるあゝうらやまのさびしき

さかたのわがさびしきうらやまのさびしき

ゆきふかふかあつちのさびしき

くさくさあつちのさびしき

わがさびしき

朗詠雪 謝観
梁の孝王 鄒生 牧叟 文入 雪を 書 詩 二 函 在

曉入梁の雪 満群の夜 登屋の梅月 明千里

あのがさきくらくらもさわわのさびしき

うずたれは馬など けしんらさ

見しものとき けしんらさ

酉酉年十四の子朱雀院同版の事也 譚成明人五十二代

やうやうなうらやまのさびしき

をくさるる

村上天皇の古時源延元天徳の比乃吾孫也 藤原清盛也

元輔藤原敏 天曆の比乃吾孫也

日雲花の何とさくさく

白文集二十五寄 散懐律 五七言八句の胸は

琴詩酒友皆抱我 雪月花時独憶君

甘の約定

ウガゴノマシムキヨメノケノヤ

和是折

カガアキノワノミヤノオノミヤノ

ミヤノオノミヤノオノミヤノ

村の

地

ノミヤノオノミヤノオノミヤノ

和定

オノミヤノオノミヤノオノミヤノ

蛙の大ニハク

ノミヤノオノミヤノオノミヤノ

ノミヤノオノミヤノオノミヤノ

内形 宣昔

ノミヤノオノミヤノ

後拾遺の作者大和の宣昔と同人あらざりし。作者部歌中納言、

惟仲^{トメ}女三葉院白皇后之女房大和守義忠為高^ス大和

河海ノ雲^{スミレト}義忠前目^{スミレト}於^{スミレト}雲迹石上有^{スミレト}神事号^{スミレト}山形

花鳥^{ハナトリ}みづれき玉花姫の別雷^{ヒメ}津^{ヒメ}みづの

むら

宣昔^{ノボリ}よとらけ^{ノボリ}人形也^{ノボリ}

五^{ノボリ}す^{ノボリ}ぞ^{ノボリ}も^{ノボリ}あ^{ノボリ}れ^{ノボリ}あ^{ノボリ}ら^{ノボリ}し^{ノボリ}の^{ノボリ}の^{ノボリ}の^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}な^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}い^{ノボリ}は^{ノボリ}ら^{ノボリ}

寒上房の...
The...
The...
The...

情女の...
情女の...
情女の...
情女の...

格の...
格の...
格の...
格の...

情女の...
情女の...
情女の...
情女の...

情少...
情少...
情少...

情少...
情少...
情少...

情少...
情少...
情少...

禁秘抄上臈不謂是非三位典侍号上臈著赤青色假陪膳
陪膳は信諸多ありけり
大坂也
甘子 著密
情少
まあわ...

とてなまらしきもはあはれなるにせむるもあはれなるにせむる

田真敷ははるに民をたすむる由記よりなり。封命なるはその由なり

ト一はあはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり

臆るは射也 笑也 ははるにせむるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 集

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 道隆

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 清

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 右の免伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 映也

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 大納言の由

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 右の免伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

あはれなるの由記よりなり。あはれなるの封命なるは其の由なり 伊周

上より分業がさやのりせ又さしあるが。筆端からいふ所も

つしんや。以後云々天仁二年八月日向つおつ葉事ハ言後ハ時ハ

假字ハ字ハ本ハ印ハ時ハ始ハ起ハ字ハ又ハ行ハ入ハ再ハ行ハ者ハるハらハ大ハ呼ハ出ハ

伊國の御

情少

そつらろがらん。かかろみほせまふけいそつらろのわらわろくほん

とつらろー^てまつらろまのつらろさつらろのつらろしつらろまのつらろま

つら

務糸

つらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろま

變化

つらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろま

つらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろま

情少

かか

つら

つらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろま

別

後の情少

つらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろま

おろ

基盤

つらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろま

情少

つらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろま

奥多抄くのみなむさくくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろくろく

神中抄。取昭えあ家のあまもままもままもままもままもままもままも

四交律白時世尊ハ嘆ハ諸ハ比丘ハ呪ハ言ハ長ハ壽ハ下界

情少

太

つらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろま

情少

つらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろま

推

つらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろまのつらろま

推

熱

新集の序

此一は... *... of ...*

此一は... *... of ...*

此一は... *... of ...*

此一は... *... of ...*

此一は... *... of ...*

此一は... *... of ...*

此一は... *... of ...*

此一は... *... of ...*

清少納言旁註巻第八終

